

令和5年度 「スラブ・ユーラシア地域（旧ソ連・東欧）を中心とした総合的研究」に関わる
「共同利用型」の個人による研究 研究報告書

令和6年4月29日現在

研究課題名	ロシア文学にみる「空間」表現の方法について:18世紀及び19世紀の出版物を手掛かりに	
申請者	氏名	所属機関・職
	金沢 友緒	電気通信大学・講師

研究成果の概要

本研究では近代ロシア文学における「空間」表現の方法を考察し、その一端を明らかにすることを試みた。ここで述べる「空間」とは、登場人物や語り手の存在を物語の中で成立させている因子としての〈空間〉を意味しており、単なる地名や場所の指摘に限らない。特に、「空間」の演出に「時間」がどのように関わっているか、という視点からプロットの展開や場面の描写に注目した。「時間」の表現には、「…時」、「…分」、「…秒」、といった具体的な時刻表現の他に、朝・昼・夜等の一日の時の経過や、季節を示唆する風景描写もあり、瞬間や持続性を示す記述も含まれる。これらの時間表現は、テキストの中の「空間」の演出に重要な役割を果たしている。そして、カラムジンの『ロシア人旅行者の手紙』やラジーシチェフ『ペテルブルクからモスクワへの旅』のような、大きな移動を前提とする作品の中には、多彩な時間表現を見出すことができる。また、そうした空間の移動と時間の変化の結びつきは、感傷文学における登場人物の内面描写の手法とも深い関係にあると考えられる。

以上のような視点から、18世紀及び19世紀のロシアの出版物を中心に、文学テキストの中の「空間」がどのように演出されているのか、調査した。調査に際しては、スラブ・ユーラシア研究センター所蔵の«Eighteenth-century Russian publications»に収録されているロシアのオリジナル作品や、西欧の著作の翻訳を参照した。

本研究課題は別途採択中の若手研究「近代ロシア文学と時計がもたらした西欧の「時間」—皇帝・職人・作家の文章を中心に—」（2022-2026年度）とも関連しており、本研究を通じて得た情報・視点・調査結果は今後の作業にも活かしたいと考えている。

主な発表論文等（雑誌論文、学会発表、図書 等）※謝辞の有無について明記願います。

T. Канадзава А.К.Толстой и мотив «времени»//Личность А.К.Толстого:писатель, историк,наставник: сборник материалов круглого стола.Брянск, 2023. С.21-27. (近刊) (謝辞無)

当該研究活動をもとに採択された研究プロジェクト（応募中の研究プロジェクトを含む）なし